様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２４年　５月　１８日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2009～2010
課題番号：21720036
研究課題名（和文）　近代日本における同時代イタリアの視覚イメージ

研究課題名（英文）　Visual images of contemporary Italy in modern Japan

研究代表者
尾崎　有紀子（ OZAKI　YUKIKO ）
早稲田大学・日欧研究機構・研究員
研究者番号：80506155

研究成果の概要（和文）：明治期～昭和戦前期の日本における同時代イタリアの視覚表象および言説を収集し、国家統一運動（リソルジメント）を経て国民国家形成期にあった近代イタリアの様々な文物の日本への伝播の様相を分析した。とりわけ近代イタリアの国民形成に大きな影響力をもった文学作品「クオーレ」の日本での受容過程を精査した。またイタリアの詩人ダンヌンツィオのジャポニスム受容をめぐる新出資料を調査し、日伊両国で成果を公表した。これらの成果は学位論文「近代日本におけるリソルジメント表象の伝播と受容」として早稲田大学へ提出した。

研究成果の概要（英文）：The researcher collected written and visual materials of representation of contemporary Italy published in Japan from Meiji era to prewar Showa period, and analyzed various aspects of spread and acceptance of culture products and tendencies of modern Italy at its formative period. Especially the researcher adopted the novel *Cuore* (1886) by Edmondo De Amicis with illustrations and analyzed the history of its acceptance in Japan. The researcher also investigated an unpublished manuscript of celebrated Italian poet Gabriele d'Annunzio and concluded that the manuscript was one of the first drafts of his poem *Outa occidentale* (1885). The thesis on the inference was published in Italy as well as in Japan. These results are presented for the researcher's doctoral dissertation.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	700,000	210,000	910,000
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総　計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：美学・美術史

キーワード：日伊文化交流・比較文学・表象・児童文学・イタリア

１．研究開始当初の背景

近代日伊文化交流史をめぐる先行研究はこれまで様々な視点・方法により蓄積されてきたが、近代における日本から見たイタリアの同時代イメージはさほど詳細には調査がおこなわれておらず、とりわけ大正期から昭和戦前期にかけての日本における同時代イタリアの文化・文物受容については網羅的な研究は多くなかった。本研究課題においては、この点について、おもに視覚表象を中心に基礎的調査をおこなった。

美術史の分野では、たとえば日本初の官立美術学校である工部美術学校において、多くの日本人画家がイタリア人教師から西洋美術の技法を学んだことがよく知られている。しかし彼らイタリア人画家たちが、祖国イタリアの国家統一期のまさに同時代人として生き、統一運動の戦いに兵士として従軍した人々でもあったという事実の詳細に関しては、本研究課題申請の時点ではそれほど踏み込んでの調査研究はなされていなかった。またいっぽう、幕末から明治初期にイタリアでおきた歴史の動きは同時代の日本人画家たちにとっても大きな関心事であったが、これについてもさほど考察はなされていなかった。あわせて、リソルジメントをめぐる視覚表象・言語表象はともに同時代の日本の出版物にたびたびあらわれているが、日伊文化交流史研究の中でもごくまれにしか言及されていないという状況があった。

研究代表者は本研究課題申請の時点までの研究により、昭和 10 年代以降、日本とイタリアが同盟関係となる前後の時代に、日伊間の国家的交流を土台にして、近代イタリアをめぐる表象が時局に即した文脈にそって日本でひとつのイメージをかたちづくる過程を断片的ながら調査していた（尾崎有紀子「『クオーレ』、ガリバルディ、ムッソリーニ—近代日本の児童書におけるイタリアの英雄像」、『比較文学年誌』第 44 号、2008 年）。この流れを遡るかたちで、近代日本における同時代イタリアをめぐる表象の網羅的調査を実行したいと考え、本研究課題の申請により、その作業に着手した。

２．研究の目的

研究全体の目的は、明治以降昭和戦前期までの期間の日本でうみだされた、同時代イタリアにかんするイメージの調査・分析であった。

イタリア本国におけるリソルジメントをめぐるイメージ群は、近代イタリアの「描かれたナショナル・アイデンティティ」とでもいうべきものであり、19 世紀イタリア視覚文化史の一様相であるといえる。それは近代国家とイメージ、あるいはナショナリズムとイメージとの関係など、きわめて今日的なメッセージを内包している。本研究においては、日本ではあまり顧みられずにきたそれらの視覚イメージが、戦前期の日本においてひとつのイデオロギーの表象として受容されていたことが、計画した一連の作業によって明らかになると考えた。それによって、リソルジメントとそれ以降の近代イタリアの歩みにかかわる図像・言説を可能な限り発掘し、それを系統的に分類・分析して、従来の考察からもれてきた日伊交流史の歴史的・文化的な意義を明らかにしてゆくことを目的としつつ、あわせて当該時代にかんする、文献上の調査に基づいた両国交流史の基盤構築をめざした。

３．研究の方法

研究期間中のすべての年度にわたり、当該の時代に出まわった種々の出版物、制作された絵画作品、同時代イタリアをめぐる言説を編年的に収集し、モティーフごとにその表象事例が出現した社会的文脈を分析した。申請課題に「視覚イメージ」としたとおり、視覚表象の収集を中心に考えていていたが、むろん必要に応じ、言説・言語表象の事例も可能な限り採取した。

【2009 年度】初年度の調査対象は明治期から昭和戦前期にかけての新聞・雑誌・大衆出版物とし、新聞については『東京朝日新聞』『大阪朝日新聞』『東京日日新聞』『報知新聞』『時事新報』『読売新聞』『国民新聞』『都新聞』等（他多数）を中心に、イタリアについて報じられた記事の採集をおこなった。雑誌については『国民之友』『少年世界』『女学雑誌』『新潮』『太陽』『中央公論』『日本及日本人』『日本』『改造』等（他多数）を中心に同様の記事採集をおこなった。明治期のリソルジメントをめぐる言説には、洋行した官僚らの観察記録や、当時隆盛した政治小説のなかでリソルジメントが物語られた事例、また明治以来の日本の道徳教育の牽引者らが、その初期にリソルジメントに対して関心を寄せていたなどの例が挙げられるが、同時にリソルジメントの貢献者が「西洋の偉人」として通俗的な出版物や児童むけ偉人伝に脚色を加えられて紹介される例が散見されたため、

当該の時代に出版された児童書についてもできる限り多くの事例の収集を試みた。

これらの作業を進めつつ、近代日伊文化交流史にかかわる周辺事項にも目配りを心がけていた折、早稲田大学戸山図書館が所蔵する、19 世紀フランスで刊行された仏訳和歌集『蜻蛉集』(*Poèmes de la libellule*)に書かれたイタリア語の書き込みを調査する機会を得た。同書冒頭の余白頁にインクで書き込まれた文字を書き起こし、同書に添えられた資料にもとづいて関連事項の調査・分析をおこなった結果、同書がイタリアの詩人ガブリエーレ・ダンヌンツィオがかつて所有していたものであること、当該の書き込みが詩人自身の手によるものであり、同書の刊行と同時期に発表された詩人の「西洋うた」と題する作品の最初期の草稿と推測しうるものであることが判明した。この成果を 2009 年 12 月の明治美術学会総会にて口頭発表し、翌 3 月刊行の『比較文学年誌』(早稲田大学比較文学研究室)に論文を発表した。また本年度のイタリア関係記事収集の成果については、状況報告にとどまるものながら『早稲田大学地中海研究所紀要』に小論を発表した。

【2010 年度】次年度はひきつづき、昭和戦前期までの国内の主要メディア・出版物におけるイタリア関係記事の収集をおこなった。前年度に発表した早稲田大学戸山図書館蔵『蜻蛉集』上のダンヌンツィオの草稿をめぐる調査について、イタリア文学研究者諸氏の助力を得て、イタリアのペスカーラで刊行されているダンヌンツィオ専門誌への論文投稿の準備に入った。前年度に発表した成果の確認および継続調査をおこない、修正点や遺漏の確認、専門家からの指摘等をふまえ、新たに判明した事項等をまとめる作業をここでおこなった。これらの継続調査の成果は、2010 年冬に早稲田大学内で口頭発表の上、2011 年 3 月刊行の『比較文学年誌』に補遺として発表し、また同年 2 月末にはダンテ・アリギエーリ協会日本支部にて、講演というかたちで報告をおこなった。

イタリア関係記事の収集作業については本研究課題執行終了前後に博士学位請求論文としてまとめることを念頭に、作業を進めた。大正期から昭和戦前・戦中期、日本とイタリアが軍事同盟国となる時期に至るまでの言説の変遷と、それにともなって提示され流布した視覚イメージの特質、およびそうしたイメージが出現する背景について、これらの調査をもとに、近代イタリアの言語・視覚表象の日本における受容状況について考察を深めた。こうした作業を経て、前年度に取り組んだ『蜻蛉集』とダンヌンツィオとの関係をめぐる調査が、昭和戦前期日本の日伊交流にかんする状況においても少なからず意味をもち、この詩集にかかわるダンヌンツィオの日本趣味をめぐる話題が、本研究課題が対象とする時代に、局面ごとの文脈にそって語られていることをも確認した。しかし本研究課題申請時には『蜻蛉集』とダンヌンツィオをめぐる調査のここまでの展開を予想しておらず、本年度後半の時点で、当初の計画の主眼であったイタリア関係記事収集作業の遂行スケジュールに修正の必要が生じた。そのため本年度末に交付金の繰越申請をおこない、2011 年度もこの作業を継続することとした。

【2011 年度】前年度末の繰越申請が認められ、ひきつづき国内出版物におけるイタリア関係記事収集作業をおこなった。本年度とりわけ注意をむけたのはリソルジメントを経た 19 世紀後半のイタリアで刊行された児童小説「クオーレ」(エドモンド・デ・アミーチス著)の日本受容の過程であった。同書は明治期より抄訳・翻案等をとおして日本でも広く親しまれてきたことが知られているが、とくに明治～大正期の国定教科書においても翻案のかたちで採用されていたことを起点に、そこに同書中のどの章が、いかなる教育上のねらいをもって用いられたかという点について具体的な調査にとりくんだ。同時期、民間でも挿絵を添えられた多数の「クオーレ」邦訳が出まわっていたことをふまえ、同書が昭和戦前・戦中期に至るまで、時局に即した文脈で好ましい読み物として児童に提供され続けた状況を洗い出した。これについてはまず本年度 5 月にイタリア近現代史研究会例会にて梗概を発表し、来聴者より多くの貴重な指摘を得た。また 11 月にイタリア文化会館にて開催された「第 11 回世界イタリア語週間」でも、これまでの調査結果をふまえた包括的な口頭発表をおこない、年度末には『研究紀要』(早稲田大学イタリア研究所)に論文を発表した。

『蜻蛉集』とダンヌンツィオをめぐる調査のイタリアでの発表も本年度 12 月に、ペスカーラで刊行されている専門誌への論文掲載のかたちで実現された。

４．研究成果

国内のメディアおよび出版物を中心にした視覚表象・言語表象の事例収集の結果、日本とそれほど時を隔てずして国民国家として歩みを始めた近代イタリアの文物・国家観念・国民形成の過程における様々な文化的現象の、日本への伝播と受容の過程をとらえることができた。

まず明治期の事例としては、明治維新が達成されたばかりの日本からイタリアの土を踏んだ画家たちが制作したのが、リソルジメントをめぐる愛国者や兵士の肖像であったこと、彼らが学んだ日本初の官立美術学校に、リソ

ルジメントのさなかを生きたイタリア人教師がいたことをとおして、リソルジメントが日本人画家にも少なからず意識されていた運動であったことを再確認した。

統一成ったイタリアで国民の道徳精神涵養の装置となったとさえいえる児童文学作品「クオーレ」の日本における受容史については、リソルジメント達成後のイタリアで国民に求められたさまざまな道徳的規範が、親しみやすい児童文学のかたちとなって日本に到来し、愛読され、そして明治末以降、全国の児童に読まれる文章教材となることによって、同作品が近代日本の道徳規範形成に甚大な影響力をおよぼしていった事実を跡づけた。

また明治期から大正期に至るさまざまなリソルジメントの言説とそれに付随する視覚表象の出現を軸に、大正末期から昭和初期の児童書にあらわれたイタリア表象の事例を追った。当時の児童文学者が、イタリアを題材として児童をひきつける作品をうみだすための豊富な素材は、それらの同時代情報のうちに出そろっていた。国家統一の英雄ガリバルディ、少年たちの愛国的ふるまいが語られる「クオーレ」、そして同時代のイタリア本国から日本に伝えられた第一次世界大戦の勇敢なイタリア軍人をめぐるエピソードや、「愛国詩人」とも呼ばれたダンヌンツィオのような人物にまつわる逸話などが巧みにもりこまれながらこのとき、同時代イタリアをめぐる児童書が世に出ることとなる。そしてそれは児童むけ出版物のなかで、当代イタリアの新進政治家・ムッソリーニが好意的に紹介される言説ともつながった。

そして詩人ダンヌンツィオの、早稲田大学戸山図書館蔵『蜻蛉集』上における未公開の草稿をめぐる調査については、その資料的価値の提示のみならず、日伊関係が強固となる時期、問題の草稿にもとづいてうみだされた詩作品「西洋うた」が両国の絆の深さを強調する文脈で語られた点をも指摘し、一国における他国の文化受容の様相が、時代の局面によってさまざまにあらわれる言説に彩られる実例を示すことができた。同時に、ジャポニスムを介した、イタリアにおける日本イメージのひとつの結実としての事例の提示ともなった。

リソルジメント成立以後のイタリアと明治維新後の日本のいずれにおいても、民衆には国民国家の構成員としての意識形成と、国家への強い帰属意識とが求められていた。イタリアから伝播した諸表象を通して、日本人はそうした時代の価値観をも受容したといえる。本研究は、近代イタリアの歴史的変革が我が国で受容され咀嚼される際の様々な事例とその特徴を提示し、その受容が近代日本の社会的・政治的な背景のなかではたしてきた役割をめぐる実証的研究となった。

本研究課題の成果のすべては、学位請求論文「近代日本におけるリソルジメント表象の伝播と受容」としてまとめられ、2011 年度末に早稲田大学へ提出された。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）
①尾崎有紀子「『蜻蛉集』とダンヌンツィオ―「西洋うた Outa occidentale」新資料をめぐって」、『比較文学年誌』、査読無し、第 46 号、2010 年 3 月、pp. 89-109.
②尾崎有紀子「昭和戦前期のイタリア・イメージにかんするノート―児童書を中心に―」、『早稲田大学地中海研究所紀要』、査読無し、第 8 号、2010 年 3 月、pp. 11-20.
③尾崎有紀子「『蜻蛉集』とダンヌンツィオ」補遺」、『比較文学年誌』、査読無し、第 47 号、2011 年 3 月、pp. 71-75.
④Yukiko OZAKI, *Poèmes de la libellule e d'Annunzio: Nuovi documenti di Outa occidentale*, Rassegna dannunziana, nn.59-60, Pescara, 2011, pp. 3-10. 査読無し
⑤尾崎有紀子「大正期国定教科書にあらわれた「クオーレ」翻案―「長き行列」と「中村君」を中心に―」、『早稲田大学イタリア研究所紀要』、査読無し、第 1 号、2012 年 3 月、pp. 87-104.

〔学会発表〕（計 4 件）
①尾崎有紀子「『蜻蛉集』とダンヌンツィオ―〈西洋うた Outa occidentale〉新資料をめぐって」、明治美術学会、2009 年 12 月 5 日、早稲田大学
②尾崎有紀子「『蜻蛉集』とダンヌンツィオ」補遺―早稲田大学戸山図書館蔵資料をめぐって」、早稲田大学比較文学研究室第 213 回月例研究発表会、2010 年 12 月 16 日、早稲田大学
③尾崎有紀子「日本における「クオーレ」受容―明治～昭和戦前期を中心に」、イタリア近現代史研究会、2011 年 5 月 21 日、早稲田大学
④Yukiko OZAKI, Immagini del Risorgimento in Italia e in Giappone, XI settimana della lingua italiana nel mondo, Istituto Italiano Della Cultura di Tokyo, il 6 novembre 2011.

〔その他〕
ホームページ等

①尾崎有紀子「Il ritorno della libellula: Un altro Outa occidentale di Gabriele D'Annunzio 帰ってきたトンボ ガブリエーレ・ダンヌンツィオ、もうひとつの「西洋うた」」、『Il Gekkan』、ダンテ・アリギエーリ協会東京支部、2010 年 9 月
http:www.il-centro.net/magazine/1010/specmese.html
②（講演）尾崎有紀子「詩人ガブリエーレ・ダンヌンツィオと和歌―詩人ダヌンツィオの未公表の自筆原稿を通して和歌との深い関係を探る」、ダンテ・アリギエーリ協会東京支部、2011 年 2 月 26 日
③（メディアでの報道等）稲賀繁美氏「紀友則とダヌンツィオとの詩的競演　早稲田大学　戸山図書館蔵本の書き付けから・上」（『図書新聞』2010 年 4 月 24 日号）
http://toshoshimbun.jp/books_newspaper/week_description.php?shinbunno=2963&syosekino=2675
稲賀繁美氏「紀友則とダヌンツィオとの詩的競演　早稲田大学　戸山図書館蔵本の書き付けから・下」（『図書新聞』2010 年 5 月 1 日号）
http://toshoshimbun.jp/books_newspaper/week_description.php?shinbunno=2964&syosekino=2695
④（メディアでの報道等）「ダヌンツィオの詩 早大から草稿」（『読売新聞』2011 年 3 月 1 日朝刊）
⑤（展示）早稲田大学戸山図書館企画展示「『蜻蛉集』とダンヌンツィオ」2010 年 5 月 17 日～6 月 10 日（早稲田大学戸山図書館館内）
⑥（他文献による言及）平山城児氏『ダヌンツィオと近代文学』試論社、2011 年 12 月刊、614, 616～617 頁

６．研究組織
(1)研究代表者
尾崎　有紀子（OZAKI Yukiko）
早稲田大学・日欧研究機構・研究員
研究者番号：80506155

(2)研究分担者　なし
(3)連携研究者　なし